

委員会視察記録

委員会名	建設委員会
期間	令和4年10月18日～20日
参加者	委員長 飯田 末夫 副委員長 伊丹 雅治 副委員長 田口 章 委員 鳥澤 由克 委員 渡瀬 典幸 委員 竹内 良訓 委員 鈴木 利幸 委員 林 芳久仁 委員 諸田 洋之
視察先	1 国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所（福岡県福岡市） 2 熊本県庁 (1) 熊本駅付近連続立体交差事業（熊本県熊本市） (2) 球磨川水系流域治水プロジェクト（熊本県人吉市） 3 マリンポートかごしま（鹿児島県鹿児島市）

視察の概要

10月18日（火）

■ 国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所

<概要>

福岡市内の「中州」と「天神」を結ぶ春吉橋は、昭和36年の架設から60年以上が経過し、下部工の損傷が著しく、感潮区間にあるため塩害も進行し、さらに基礎が木杭であるため地震に対する十分な耐力が期待できなかった。

春吉橋が架かる那珂川は、平成21年7月の中国・九州北部豪雨で流域に甚大な被害が発生しており、福岡県が河川改修工事を進める中で、春吉橋は橋脚の間隔が短く、川幅も狭くなっているため治水上のネックとなっていた。

上記の課題を解決するため、平成25年から春吉橋の架け替え事業に着手しているが、本事業では迂回路橋を永久橋として建設し、架け替え後は都心部におけるにぎわいを創出する空間として活用する計画である。

<主な質疑応答>

Q 事業費はどの程度か。

A 約54億円。

Q 迂回路橋を残す形でコスト縮減はどの程度見込まれるか。

A 特にコスト縮減は見込んでいない。

Q 迂回路橋の管理者はどこになるのか。

A 道路とのつなぎ目までが福岡国道事務所になる。にぎわい空間の部分は福岡市が管理者となる予定。

Q 法的には公園という位置づけになるのか。その場合はどのような規制が生じるのか。



A 県と市からの負担金もあり最終的な形は調整中。市への引き渡しまでは仮設橋の扱い。橋の上部と下部を合わせて市へ引き渡すが、引き渡し後の市の道路担当と公園担当との役割分担は未定。

道路として管理するのであれば道路占用許可で対応することになる。公園としてであれば、PFI等で整備し管理者が常駐するといったことも想定されるが、これらについても今後決定していくことになる。

10月19日(水)

■ 熊本県庁

・熊本駅付近連続立体交差事業

<概要>

熊本駅付近連続立体交差事業は、JR鹿兒島本線の約6km区間及び豊肥本線の約1km区間を高架化し、側道及び踏切を除去した交差道路を整備するものであり平成30年度に事業が完了した。総事業は約625億円。



九州新幹線整備事業と合わせて実施し、効果的に事業を実施する観点から駅前広場、街路事業、熊本運輸センター(車両基地)移転などの熊本駅周辺整備と一体的に進めた。

事業効果としては、全15の踏切の除却が完了したことで交通渋滞が解消され、安全・安心な生活環境が実現した。本妙寺踏切では、最大600mあった渋滞長がゼロとなり、1日当たり174分あった遮断時間もゼロとなった。

<主な質疑応答>

Q 駅周辺で地下が上昇しているのはどの辺りか。

A 西口(新幹線口)周辺は区画整理でマンションが増えている。元々は車両基地で新幹線駅ができるまでは駅への出入口もなかったため、事業効果は大きい。

Q 現在の課題はあるか。

A 周辺の開発をどのように進めていくのかが課題と捉えており、西口(新幹線口)では集約都市開発なども考えられる。また交通量が増加している箇所に対して今後どのように対策を講じるのかも注視していく必要がある。

・球磨川水系流域治水プロジェクト

<概要>

令和2年7月の豪雨災害からの復興と同規模の洪水に対する氾濫防止、家屋浸水防止などを目指し、河道掘削、堤防整備、遊水地等整備の取組を集中的に実施する、国、県、市町村等あらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策である。



令和2年7月豪雨は河川整備基本方針の計画雨量を超えるものであり、約1,290ha、約7,000棟の浸水被害があり、死者67名、行方不明者2名、被害総額5,222億円であった。

今回の豪雨被害を受けて、流域治水プロジェクトを策定するとともに、河川整備基本方針及び河川整備計画を変更し、越水反乱、家屋浸水防止など浸水被害の軽減を図っていく。

<主な質疑応答>

Q 水災補償を付帯した火災保険への加入促進策はどのような内容か。

A 流水型ダムが令和17年度に完成すれば家屋の浸水被害は防げるが、それまでは浸水のリスクがあるため、浸水しても速やかな生活再建につなげられるよう、保険料の一部を負担することで保険加入のインセンティブとなることを狙っている。特定の保険会社が対象ではなく、市町村が要綱を定めて加入者に保険料の助成を行い、その3分の2を県が負担する制度であり、県の補助対象は球磨川流域の市町村に限定している。

Q 流水型ダムは2箇所を整備で相当の効果が期待できるのか。

A 川辺川の流水型ダムは8億3000万トン貯水できる。元々多目的ダムであったが発電と灌漑には使わず全て治水に使用するため通常時は空のダムとなる。気候変動の影響によりこれまでの1.1倍の雨が降ると言われているが、これにも対応できる規模となる。川辺川ダムの人吉市の流域面積に占める割合は約41%、市房ダムは約14%となっている。

10月20日(木)

■ マリンポートかごしま

<概要>

鹿児島港のクルーズ船の誘致は民間(商工会議所)が主体となって始まり、当初は工業地である谷山一区にクルーズ船を受け入れていたが、貨物船等との調整、景観や飼料の臭気、市街地や観光地へのアクセスといった課題があった。このため、平成11年から中央港区に埋立工事によりマリンポートかごしまを整備し、平成19年からクルーズ船対応岸壁で受入れを行っている。



平成30年6月には、鹿児島港が国際旅客船拠点形成港湾に指定され、連携船社として世界第2位のクルーズ船社である「ロイヤル・カリビアン・グループ」と「鹿児島港クルーズ拠点形成協定」を平成31年3月に締結した。

稼ぐクルーズの実現に向けて、上質な観光素材の発掘、上質な寄港地観光の企画・提案を行い、観光客の満足度向上、観光地の広域化を進めている。

<主な質疑応答>

Q 桜島の土石流で発生する土砂をどのように活用しているのか。

A 国の事業により土石流が貯まる箇所近くの鹿児島市の土地をストックヤードとして土砂を貯め、必要な箇所へ搬出している。現在ストックヤードが満杯に近づいているため、更に土砂を貯めることができるよう検討が必要。

Q 広場には何も設置せず芝生のままにしておくのか。

A 災害時の自衛隊の受入れや瓦礫類の仮置き場としての利用を想定しているため、あえて芝生のままにしている。平常時は市民が自由に使うことが

でき、イベントなどでも利用している。